

中長期目標 (学校ビジョン)	「暖かき人間関係」「高い志と生き抜く力」「自己への挑戦」を大切に社会に貢献出来る人材の育成を目指す。	今年度の重点目標	1. 基礎学力の向上・資格の取得 2. 基本的な生活習慣の習得・継続 3. コミュニケーション能力の向上 4. 進路指導の充実
-------------------	--	----------	--

年度当初				評価結果			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法
基礎学力の向上・資格の取得	○学習意欲の喚起 ○授業の質の向上 ○放課後学習の充実 ○資格取得学習の充実	○不登校傾向等により学習の空白時間を有する生徒も多く、基礎学力の定着が充分とはいえない。 ○職員間による授業の質に差がある。 ○昼間に登校できない生徒数名が放課後に学習しているが質の高い指導が出来ていない。 ○全校生徒が受検する検定試験(漢字検定・パソコン検定)の合格率が30%程度とあまり高くない。	○学ぶこと、分かることの喜びを知り、意欲的・自立的な学習展開を図れる。 ○授業の質向上のために、職員の努力が日々行われ、定期的に研究授業を実施している。 ○目標の達成のために放課後、意欲的・自立的に学習する姿が見られる。 ○各種検定試験の合格率が50%以上。	○分かりやすい授業・魅力ある授業づくりに努め、基礎学力の向上を図る。特に1年生は英語・数学と苦手な分野を克服し、自信をつける。 ○研究授業をすることで授業に対する職員の意識を高め、授業の質を上げる。 ○担当職員を決め、放課後学習のきめ細かい指導を徹底し、自立学習により学力を引き上げる。 ○資格を取得する意義を浸透させ、意欲を高め、反復練習によって合格率を高める。	○視覚教材や実習などを取り入れ工夫しながら進めているが、克服するには至っていない。 ○研究授業を春期休業・夏期休業で集中的に実施することが出来た。 ○担当職員を明確にし、放課後学習でのきめ細かい指導が出来ているが自立学習には至っていない。 ○反復シートなど工夫を凝らしながら学習を進め、前期の各種検定では40%程度に上がっている。	B	○生徒に見える形で積み重ねていく必要がある。 ○研究授業を引き続き継続していく。 ○放課後の生徒は特に指示待ちになりがちなので的確な指示を出し自立学習に近づけていく。 ○取得意欲の喚起に力を入れ、更なる自立学習につなげていく。
基本的な生活習慣の習得	○ルールや公共でのマナーの向上 ○信頼し合える関係作り ○清掃活動の習慣化	○身だしなみを整えられない生徒・時間を守れない生徒が見られる。 ○他人に対し壁を作り、心を開くことが出来ない生徒が見られる。 ○掃除を人任せにする生徒が見られる。	○社会に出てから通用する身だしなみと生活態度・時間管理が身に付いている。 ○生徒同士、生徒・保護者と職員同士が何でも話せる雰囲気がある。 ○自らが率先し毎日清掃活動を行っている。	○月に一度、服装検査を実施することで「身だしなみ」の確認を行う。登下校時、毎日職員が由良駅まで行き、公共施設でのマナーの徹底を図っている。授業開始5分前には準備を整えさせる。 ○信頼関係の構築のために様々な機会をとらえて生徒に声かけをするように努める。毎月、最終水曜日には「ソフトなタペ」と称して保護者と職員が気軽に参加できる情報交換の場を作っている。 ○日ごろの清掃活動の取り組み指導、それに合わせて施設を綺麗に使用する意識を持たせる。	○服装検査が定着し生徒自身の意識も高まっているが、まだ不十分な生徒が見られる。特にゆるいネクタイ・頭髪の長さが気になる。ほとんどの生徒が授業開始には準備を整えている。 ○当下校時の挨拶、休憩時間での声かけなど積極的に行っている。「ソフトなタペ」は定期的に開催し情報交換できたが、メンバーが固定化されつつある。 ○生徒の自発性がかかりて出てきたように感じられる。また、施設も綺麗に使用するようになってきた。	B	○服装検査の時だけ服装を整える生徒が出てきている。普段の声かけの中に身だしなみのことについても意識させていく。 ○「ソフトなタペ」の参加者を増やし、より多くの意見を聞けるようにする。 ○まだ清掃を人任せにする生徒がいるので自発性のある生徒に声かけをしてもらい全員が清掃をしていく。
コミュニケーション能力の向上	○クラスでの仲間作り ○学校全体での仲間作り	○クラス内での不仲により欠席が増える生徒が見られる。 ○学年を超えた仲間意識が希薄になっている。	○人間関係のもつれが原因の欠席を無くす。 ○全校生徒が仲良く、楽しく生活している。	○少人数クラスを活かし生徒への目配りと授業担任との情報交換により生徒の人間関係を把握する。 ○選択授業において縦割りの中で生徒主体となり計画し、協力して実行していく。毎月最終木曜日の昼食時には「スープデー」と称して、全校生徒全職員が集まり、一緒に温かいスープと弁当を食べるということを行い繋がりを強める。	○昼休憩に各教室で職員と一緒に弁当を食べたりしながらクラス内での様子を把握しているが、職員同士の情報交換が出来ていない部分がある。 ○選択授業は自発的に行動し、生徒も楽しく参加出来ている。スープデーの時も他学年の壁を超えた交流があり、賑やかな雰囲気が出ている。しかし、大人数が苦手な生徒は参加しづらくなっている。	B	○職員間で情報交換をする時間を作り、その意識を高める。 ○スープデーに参加しにくい生徒は別の教室で少人数で集まり食事を共にするようにする。
進路指導の充実	○幅広い視野・職業観の育成 ○進路希望と適性に対する自己理解の促進 ○進路実現に向けての早目の具体的な行動化	○視野がとても狭く、偏っていると同時に職業に関する知識が少ない。 ○「今の自分」「なりたい自分」が見えていない生徒が多く見られる。 ○目標はあるが具体的な行動を起こせていない生徒が見られる。	○生徒が幅広い選択肢の中から進路目標を見つけ、その実現のために日々努力している。 ○自己を理解し、理想の自分を見つけている。 ○自らの進路について真剣に考えることで、日々の生活が規律ある充実したものになっている。	○職業人講話を実施することにより社会人としてのマナーの習得や職業理解を深める。と同時に視野を広げる。出前授業、学校見学を実施することにより進学に関する選択肢の幅を広げる。 ○定期的にキャリア教育を実施することにより自己理解を促し「なりたい自分」を見つける。 ○就職希望者はインターンシップを実施する。就職セミナー等にも参加し、就職に関する学習の機会を増やし、早目の行動を意識させる。また、進学希望者は興味のある学校へのオープンキャンパス等に積極的に参加する。そして、特別時間割で受験勉強を実施する。放課後に中央予備校とタイアップし学力アップを図る。	○職業人講話は前期2回実施することが出来た。修学旅行を兼ねた専門学校見学、地元の短期大学見学を実施することが出来た。 ○職員自身もキャリア教育の研修に出かけ、その知識を生徒に伝えている。 ○学校初のインターンシップを実施。就職セミナー・就職ガイダンスに積極的に参加することが出来た。進学希望者は希望する学校へのオープンキャンパスに参加した。勉強室にて特別時間割で受験勉強も実施している。	B	○職業人講話を継続していき、職業観を身につけていきたい。 ○まだ進路が明確になっていない生徒が見られるので相談回数を増やし、早い段階で進路を明確にしていく。また、キャリア教育の時間をもっと増やし、生徒に将来のことを考える時間・機会を設ける。 ○就職先が決まっていない3年生への対応を急ぐ。進学希望者が放課後に中央予備校で学習するに至っていないので意識を高めていく。